

# 研究所だより

第350号  
2015年6月3日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3016

## ～マンパワー全開！～

早いもので6月、暦の上では芒種（芒のある穀物を播く時期）の頃となりました。過日、本年度をもって休校となる窪津小学校のプール掃除のお手伝いに行きました。在校児童2名です。何をやるにしても大変です。そういう事情もあり日頃から地域のマンパワーが学校運営の原動力となっているようです。この日も地域の方4名と頼もしい定時制高校生3名がお手伝いに来てくれ、1時間余りできれいにすることができました。後日用務で窪津小学校を訪問した時には、地域の方2名が校庭の草刈りをしていました。まさに「地域の学校 地域が学校」の風景を垣間見ることができた一時でした。



## ☆授業改善 ～教師の総合的な力「担任力」を育てる～

子どもの力を最大限に伸ばす。教師に与えられた重要な使命だ。でもその前に、教師自身が、子どもの力に気づき、伸びようとしている芽を的確に見取らなければならない。それは教師なら誰でも身につけておかなければならない力だが、かといって、免許を取得すれば自動的に与えられる力でもない。そんな力を山形県では「担任力」と呼び、教師に身につけてもらうための取り組みを平成24年度から始めていますので、その取り組みの一端を紹介します。

### <三つの力を備えた教師>

【担任力】とは、①「学習指導力」②「生徒指導力」③「特別支援教育力」の三つの力を統合して、授業を核とした学級・学年・教科経営を行って行く力

#### ①「学習指導力」

- 【定義】○教材や学習活動に精通し、児童生徒を理解、授業を計画・実践・評価することで、一人ひとりの学力を伸ばす力
- 【内容】○幅広い知識、技能の習得とともに、それらを活用しながら困難な課題にも意欲的に粘り強く取り組む力をはぐくむ
- 他とのかかわりを重視した学習活動を通して、他の考えを受け入れながら自らの考えを伝えることができる能力をはぐくむ
  - 自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく力をはぐくむ

#### ②「生徒指導力」

- 【定義】○学校全体を通して、認め合い高め合う集団をつくり、その中で一人ひとりの個性を大切にすることにより、自己指導能力を伸ばす力
- 【内容】○発達段階に応じて、自然や社会、人々と豊かにかかわる体験活動を通して、自己指導能力をはぐくむ
- 人と人との関係を調整する力、協力してよりよい生活を築こうとする力を高め、互いに尊重し合う気持ちをはぐくむ
  - 基本的生活習慣や規範意識など、自立して生活する態度をはぐくむ

#### ③「特別支援教育力」

- 【定義】○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な対応を通して、それぞれのよさを伸ばす力
- 【内容】○学習上または生活上の困難を改善・克服し、自分成長を実感することを

- 通して、自分がかげがえのない存在だという思いをはぐくむ
- 障がいの有無をも含むそれぞれの違いを認め合い、将来を前向きにとらえ、自己実現を目指す必要な能力をはぐくむ
- 様々な課題に柔軟に対応しながら、目的意識をもち、自立して生きていくための資質をはぐくむ

### <授業を核として三つの力の統合>

山形県教育庁・中井義時教育次長のコメントとして、「担任力」の育成には、「教育環境の整備」（少人数学級の推進）と「学校マネジメント」（教師のゆとり創造）の二つの土台がある。前述した三つの力は、別々に作用するのではなく、主に授業の場において、児童生徒一人ひとりに統合されて作用することで、個々の能力を最大限に伸ばすことができると考える。「担任力」で大切にしたいことは、三つの力を統合するということである。優れた担任は“何をどう教えるか”ということではなく“子どもたちと何をどう学んでいくか”を考える。その時、課題となるのは、「自立した学び方を身につけているか」「認め合い高め合う関係性ができているか」「理解の十分でない子どもにどう対応していくか」等ということである。そして、これらの一つが欠けても、個々の能力を最大限に伸ばすことはできない。「自立した学び方」「認め合い高め合う姿」「理解の十分でない子どもの納得した姿」すべてを見ることができたとしたら、「担任力」が十分機能した授業が行われていると言える。とおっしゃっています。

### <週1回の“授業を見合う会”>

山形市立第三小学校では、『担任力』を学び合うために授業を見合う会をつくって実践しています。週に一時間、すべての教師に自由時間をつくり、学級を持たない教師と相談して、どこかの授業を一コマ代わってもらう。教師を育てるには、いい授業を見て学ぶことが一番だと、きっと誰もがわかっている。わかっているも、その機会をつくるのが難しいからと、実現できないでいる学校が多い。物事を実現するのは、障害要因を数えることではなく、本気でやろうとするかどうかだ。「若い先生を育てるためにも日常の授業を見せたい。こんな板書をするんだな、こんなふうにグループ活動をさせるんだな、あの子が困ったときにはあんな言葉かけるといいんだなとか、それこそ授業力を学べるし、生徒指導力、特別支援教育力も学べる。さっと見てると見逃しちゃうんですけど、学びたいという目で見ると、全部見えるんです。」第三小学校の校長は、授業を見るときは、教室の後ろに立つのではなく、子どもたちの顔が見える位置にいなさいと、若い先生たちに教えるのだそうです。

### <積み重ねれば身につけられる>

「特別支援や生徒指導の目というのは、そっくり返っていた子どもたちがぐっと前に乗り出してきたのは、先生がどんな言葉かけたからなのか、その見方なんです。子どもがフッと顔色を変えたとき、それを見取って考えているんだろうか、困っているんだろうかと、そこで立ち止まれる教師になりたいですね。子どもから突拍子もない発言が出てきた時、それを流すのではなく、『どうしてそう考えたの?』と問い返して、その子の思いをくみ取ってあげる。そうすると、実は深く考えていて、この言葉が出てきたということもありますよね。『担任力』って奥が深いと思います。」授業研の前に、研究主任から「今日は、こういう視点で授業を見ましよう」と呼びかけがある。学びたいという目で授業や子どもを見るから、教師たちには子どもが見えるようになってきたそうだ。「『担任力』を先天的にもっている先生がいて、直感的に子どもの心が読み取れる。そういう先生は学ぶほどいい先生になっていきます。でも、どこの学校でも、全員が全員、そろっているわけではないので、こういうことを具体的に積み重ねていくしかありません。」

第三小学校の校長が在任中「教師たちは、子どもを見るようになったし、子どもの声をよく聞き取るようになりました。」とおっしゃっています。

「担任力」。とんでもないことを教師に求めているのではない。教育委員会や校長に“身につけさせられる”ではなく、教師自ら身につけられるはずの力なのです。

担任力の具体的なイメージとして担任力の視点から学級・学年・教科経営、授業づくりに関して大切にしたい点を示したチェックリスト「計画を立てる（6項目）」「授業を改善する（10項目）」「振り返る（3項目）」「その他（3項目）」のうち「授業改善の10項目」を紹介します。

### ☆授業を改善する（10項目）☆

- 各時間の課題やめあては、子どもが学習の見通しをもてるものになっていますか。
- 子どもの意識や能力にあった、やりがい手応えのある課題設定になっていますか。
- 子どもの思いや考え、表現（発言・ノートなど）が、他の子の学習材料となるような手だてをとっていますか。
- 一人でじっくり取り組み、じっくり考える時間を保障していますか。
- 「わからない」「教えて」と安心して言える雰囲気できていますか。
- 子ども同士が教え合う場がありますか。
- つまずきのある子どもに適切で具体的な支援を準備していますか。
- 学習の流れが見える板書と、個人の思考が見えるノートになっていますか。
- 子どもが、授業で学んだこと、進歩・成長が実感できる場がありますか。
- 評価する規準がはっきりしていますか。

## お知らせ

### ◇教具の貸し出しをしています！◇

研究員の池先生が、昨年の一斉教研の講師杉本陽子先生の著書「個に応じた学びの基礎が身に付く」を基に制作した「かけ算九九カードゲーム」（2年生）に続き「ローマ字カード」（3年生）、「漢字カード」（1年生）を作ってくれました。（各10セット）「九九カードゲーム」についてはなかなか好評のようです。この教材の共通点は、カードでいろいろなゲームにチャレンジしながら、楽しく学べるころにあります。活用するカードの組み合わせによって多様なゲームができるため、子ども達は飽きることなく繰り返し学習に取り組めます。

ただいま貸し出しをしていますので、どうぞご利用ください。



「九九カード」

「ローマ字カード」

「漢字カード」